

## カナモジカイ が めざす もの

わたしたちは、にほんごのかきあらわし~かたについてかんがえ、そのあるべきすがたをじつげんするためうんどうしています。

にほんごをかきあらわすのには、かんじとかながもちいられていますが、かんじのかずのおおさやつかいかたのふごうりさ(ひとつのかんじによみかたがいくつもあるなど)のため、にほんごのひょうき~ほうは、せかいにれないのないふくざつなものとなり、ひ~こうりつやさまざまなわざわいをもたらしています。カナモジカイは、それらのかいけつをめざして1920ねんにそうりつされました。

せんごのこくごかいかく——これには、カナモジカイもおおきなこうけんをしました——によってもじのよめないひとはほとんどいなくなりました。また、コンピューターなどでかんじをあつかうぎじゅつもひやくてきにしんぽしました。しかし、わたしたちはこれでもんだいがかいけつされたとはかんがえていません。

1. かんじは、にほんごをただしくかきあらわすことができないふかんぜんなもじです。

「私」というかんじは「わたし」とも「わたくし」ともよめます。「明日」は「あす」とも「あした」とも「みょうにち」ともよめます。どれがただしいよみなのかは、それをかいたひとにしかわかりません。「わたし」「わたくし」、「あす」「あした」「みょうにち」は、それぞれいみはちかくてもべつのことばですから、それらをくべつできるようにうつしだすことができなければ、もじとしてのやくわりをはたしているとはいえません。

2. かんじはにほんごのでんとうをはかいしました。

にほんではがいらいのかんじをありがたがり、ほんらいのじぶんたちのことばであるやまとことば(わご)をいやしんできた

ため、おおくの やまとことば が ほろび、 かんご に とって かわられました。

かんじ は、 いきのこった やまとことば に も おおきな つめあと を のこしました。「くさい」と「くさる」、「おもい」と「おもな」は、にほんご としては きょうだい の ことば ですが、 ちゅうごくご に ならって 「臭い」「腐る」、「重い」「主な」と、 ことなる かんじ を あてて かきわける ため、 それぞれ の ことば の かんけい が わからなくなり、 したがって、 ことば の ほんとう の いみ も わからなくなりました。

また、「微笑む」と かいて 「ほほえむ」と よませる こと も おこなわれて いますが、 これは ゆるすまじき ことです。「ほほえむ」と は ほんらい 「ほほが えむ」と いう いみ ですが、「微笑む」と かい た の では その こと が みえなくなり、「微(かす)か に わらう」と いう いみ に すりかわって しまいます。

3. かんじ は にほんご の はったつ を さまたげて きました。

にほん では、 ながい あいだ かんじ に いぞん して きた ため、 め で みれば いみ が わかって も、 みみ で きいて わからない かんご が あんい に つくられて きましたし、 いま も つくられて います (たとえば、「防汚」「放鳥」「廃農」など)。 また、 かんじ の おと は きわめて かぎられた もの である ため、 かんご の ほとんど は どうおん〜いぎご と なって しまいます。

そのため、 はなしことば と して の ちから が よわまった だけ でなく、 ほんらい の にほんご (やまとことば) による ぞうご〜ほう の はったつ が さまたげられ、「カタカナ〜ゴ」が ひつよう いじょう に ふえる げんいん の ひとつ とも になりました。

みみ で きいて わからない ことば でも、 じ を みれば いみ が わかる から かんじ は べんり だ、 など と かんがえる の は、 さかだち した かんがえ〜かた です。

4. かんじ は、 ことば の じゃくしゃ を うみだしました。

め の ふじゆう な ひとびと など に とって、 かんじ を まなぶ こと

は きわめて こんなん です。 にほんご を かんじ に いぞん する ことば の まま に して きた こと が おびたしい かず の みみ で きいて わからない ことば を つくりだして きた の で あり、 かんじ を つかわない ひとびと に たいする かべ を つくって きた の です。 この こと は、 かれら に たいする さべつ で ある と いても いいすぎ では ありません。

5. かんじ は、 きょういく の うえ で おもに と なって います。

せんご の こくご かいかく も、 かんじ の かず の おおさ や つかいかた の ふくざつさ に よる がくしゅう の むずかしさを いくら か やわらげた に すぎません。 そのため、 ほんらい は ことば の うつわ で ある はず の もじ の がくしゅう —— その だいぶぶん は かんじ の がくしゅう —— が おもい ふたん と なって います。 がっこう の 「こくご がくしゅう」 は 「かんじ がくしゅう」 に かたよった もの に なって います。

6. かんじ は、 がいこくじん に とつて も おおきな かべ と なって います。

にほんご は、 はつおん も ぶんぼう も けつして むずかしい げんご では なく、 まなんだ がいこくじん は、 はなす だけ なら、 それほど の ころう は ない と いわれます。 かんじ が かべ と なり、 がいこくじんの にほんご を まなほう と する いよく を そぎ、 にほん の しゃかい への さんか を とざして さえ いる の は、 とても ざんねん な こと です。

にほん の がっこう で まなぶ がいこくじんの こども が にほんご を みに つける こと が できず に おちこぼれて いく の は しんこく な しゃかい もんだい に なって いますが、 かんじ の むずかしさが その げんいんの ひとつ で ある こと は うたがいがいよう も ありません。

7. かんじ は、 しゃかい せいかつ の のうりつ を ひくい もの に して います。

いま は、 コンピューター など で かんじ を —— いぜん に くらべれば —— たやすく あつかう こと が できます。 しかし、 かんじ への へんかんと

いう さぎょう が のうりつ を おおきく さまたげて います。

かんじ は つかいこなす こと が むずかしく、かき~まちがい や へんかん~ミス、よみ~まちがい が しばしば おこります。おくりがな の つけかた など まよう こと も すくなく ありません。(問合せ? 問合わせ? 問い合せ? 問い合わせ?) これは、じかんの むだ です。

かんじ の もたらした わざわいは まだまだ ありますが、ここ では はぶきます。

カナモジカイ の もくてきを ひとこと で いえば、かんじ を はいし すること によって にほんご の かきあらわし~かた を ごうりかし、にほんご の でんとう を まもり、かつ にほんご の ほんらい の せいめい~りよく を はなひらかせよう と いう こと です。

もっと みじかく いえば、にほんご を あいし、たいせつ に して いこう と いう こと です。

この もくてきを じつげん する ため、カナモジカイ では、かたかな だけで ぶんしょう を かく こと を うったえて きました。その ため、かたかな だけで かいて も よみやすい デザイン の カナモジ したい (「かたせんがな」と いいます。) を つくる など の かつどう を して きました。

さしあたって は、ひらがな でも よい の です。かんじ に たよらない にほんご を そだてて いきましょう。みなさん も ぜひ わたしたち の なかま に くわわって ください。